

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

### ■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲注意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

### ▲注意

●取付け調整後、本体の鴨居へのかかりが5mm以上あるか確認してください。本体と枠の間にすき間が生じ、本体が枠から外れやすくなり、ケガや故障の原因になります。

### ■取付け上のお願い

- 枠を取付ける際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付けるときは、必ず接着剤（現場手配）を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤（現場手配）を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。（本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。）
- 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材（含水率20%以下）を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 枠の取付け時には、ゆがみ・ねじれなどのないように注意してください。
- 建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくって納めてください。
- 縦枠と柱・間柱とのすき間は、枠固定金具を調整して柱とあてて内装ボードを必ず縦枠に突きあててください。突きあてができない場合は、かい木を入れてください。上枠とまぐさのすき間は必ずかい木を入れてください。
- かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 本体は落下させたり、立てかけるときに衝撃を与えないでください。戸車部の樹脂部品がキズ付き、開閉に支障をきたすおそれがあります。

### ■部品・部材の明細

#### ■部材の明細 ※枠はノックダウン、本体は完成品

引違い戸用本体	ケーシングセット(ケーシングタイプのみ)										
<p>1枚梱包×2</p>	<p>ケーシング材 (横用)</p> <p>ケーシング材 (縦用)</p>										
	<p>引違い戸用敷居</p> <p>●下レール (2本)</p> <p>●薄敷居</p> <p>●つば材</p> <p>又は</p> <p>●下レール (2本)</p> <p>●埋込敷居</p>										
<p>引違い戸用枠</p> <p>●上レール</p> <p>●戸当たり(2本)</p> <p>●右縦枠</p> <p>●左縦枠</p> <p>●鴨居</p>	<p>■枠用部品</p> <table border="1"> <tr> <td>組立て用皿小ねじM4×50</td> <td>4本</td> </tr> <tr> <td>鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50</td> <td>※8本</td> </tr> <tr> <td>縦枠取付け用ナベタッピンねじφ4×40</td> <td>6本</td> </tr> </table> <p>※予備用4本含む</p> <p>■薄敷居用部品</p> <table border="1"> <tr> <td>組立て用トラスタッピンねじφ4×50</td> <td>4本</td> </tr> </table> <p>■埋込敷居用部品</p> <table border="1"> <tr> <td>敷居取付け用ナベタッピンねじφ4×30</td> <td>6本</td> </tr> </table>	組立て用皿小ねじM4×50	4本	鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	※8本	縦枠取付け用ナベタッピンねじφ4×40	6本	組立て用トラスタッピンねじφ4×50	4本	敷居取付け用ナベタッピンねじφ4×30	6本
組立て用皿小ねじM4×50	4本										
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	※8本										
縦枠取付け用ナベタッピンねじφ4×40	6本										
組立て用トラスタッピンねじφ4×50	4本										
敷居取付け用ナベタッピンねじφ4×30	6本										

## 開口部の作り方

※開口部の水平・垂直を正しく出してください。

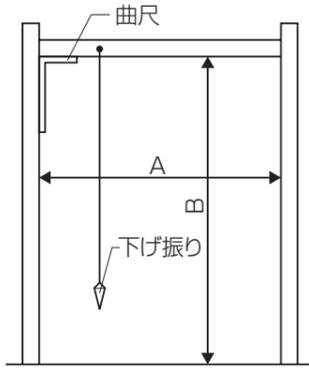
開口寸法A	製品寸法W+5mm
開口寸法B	製品寸法H+床厚+5mm

### 製品寸法表

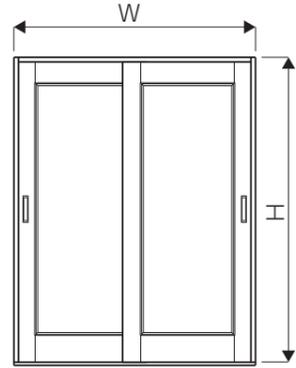
(単位: mm)

呼称	W	H
1620	1643	2023

### 開口寸法



### 製品寸法



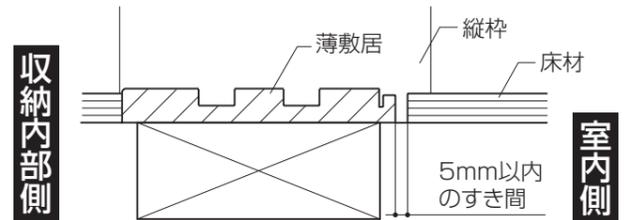
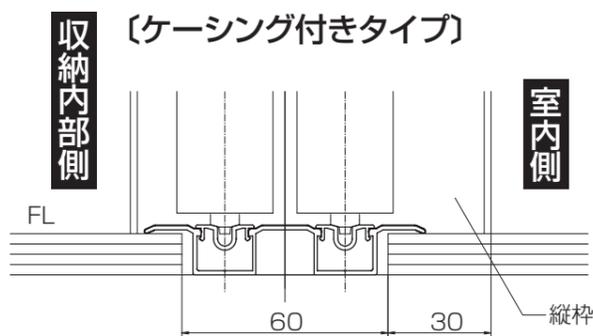
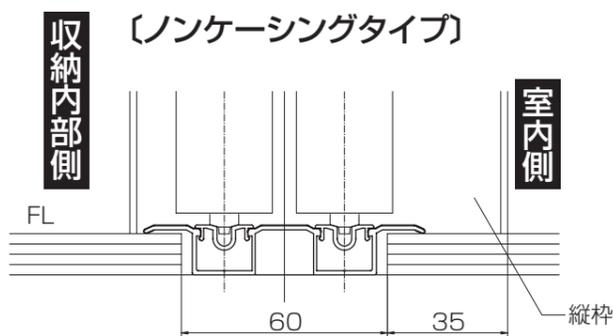
## 床の張り方

### 〔埋込敷居の場合〕

●下図のように室内側縦枠面よりノンケーシング: 35mm、ケーシング付: 30mmの位置から60mmあけて床材を張ってください。

### 〔薄敷居の場合〕

※枠取付け後、下図のように床材を張ってください。



お願い  
※床材と薄敷居のすき間は5mm以内にして  
ください。ただし、キャスターや車いす  
などの荷重がかかる場合は、すき間をあ  
けないでください。

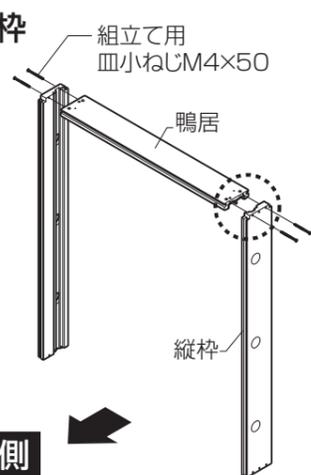
## 取付け順序

### 1 枠の組立て

#### 〔埋込敷居の場合〕

●図のように、各部材を組合わせ、同梱のねじ(皿小ねじM4×50)で固定します。

#### ●引違い枠



枠組立て上のお願  
※組立てねじは、縦枠と  
ねじ頭が面一になるま  
で締込んでください。

#### 〔埋込敷居〕



#### 〔薄敷居の場合〕

●図のように、各部材を  
組合わせ、同梱のねじ  
(皿小ねじM4×50  
およびトラスタッピン  
ねじφ4×50)で固定  
します。

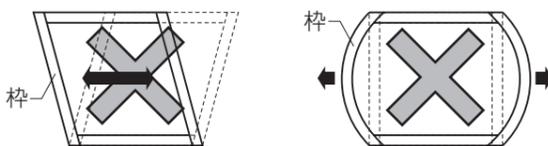
#### ■A部詳細図

※縦枠(下穴加工済み)を切断  
せずに使用してください。

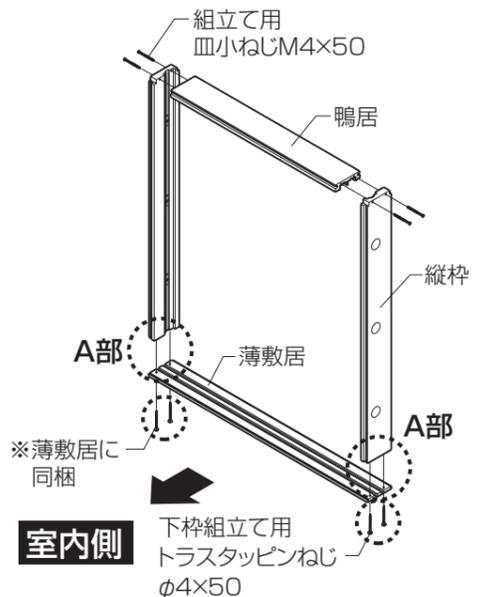


#### 枠組立て上のお願

※ガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。  
※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力  
低下などの原因となります。  
※枠組立て後、揺らす・引っ張るなどの無理な力を加え  
ないでください。破損の原因になります。



#### ●引違い枠



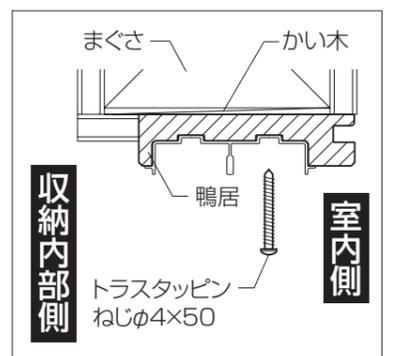
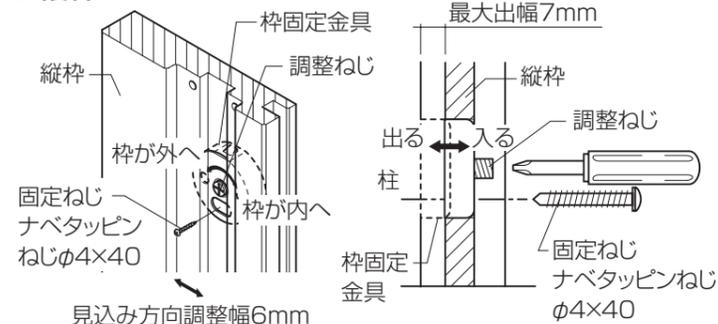
#### 〔薄敷居〕



### 2 枠の取付け

- 縦枠に取付けられている枠固定金具(縦枠に3個取付け)の調整ねじを時計回りに回し、金具を均等に出してください。
  - 枠の垂直を確認してください。
  - 固定ねじ(ナベタッピンねじφ4×40)を枠固定金具の長穴中央部より締付けてください。
  - 枠の奥行方向の倒れを確認してください。倒れている場合は、固定ねじをゆるめ、枠を動かします。(奥行方向の調整幅は6mmです。)調整後、ねじを固定してください。
  - 枠の垂直を確認してから、枠固定金具の取付いている部分の開口寸法が均等になるように調整してください。
  - 再度、枠の垂直を確認してください。
  - 鴨居にかい木を入れて、水平になるように調整したあと、トラスタッピンねじφ4×50で固定してください。
- ※縦枠の固定箇所を増やしたい場合は、予備の鴨居取付け用ねじ(トラスタッピンねじφ4×50)で固定してください。

#### ●縦枠

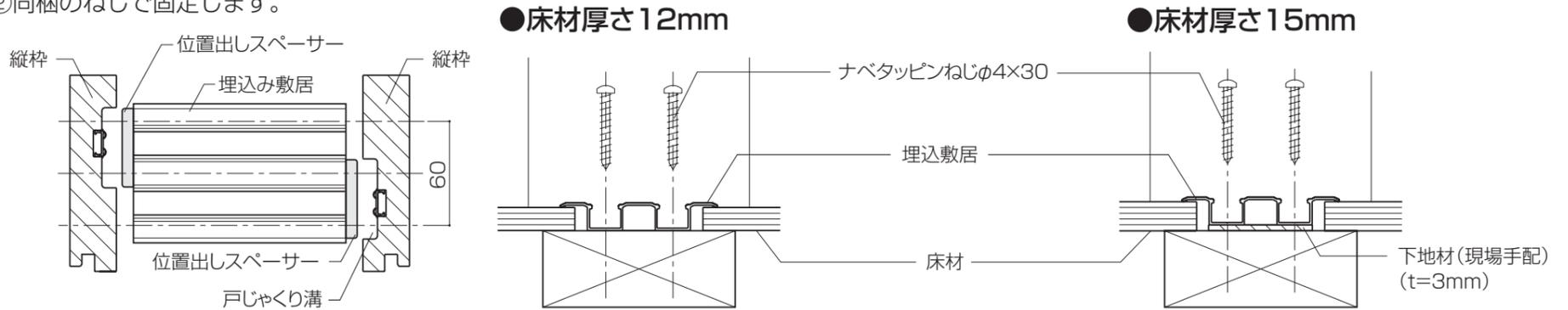


#### お願い

※枠固定金具の調整には電動ドライバーを使用しないでください。  
※必ず内装ボードは縦枠に突きあてて施工してください。突きあてができない場合は必ずかい木を入れてください。  
※鴨居の躯体固定ねじを締込みすぎると、本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合はねじをゆるめてください。

### 〔埋込敷居の場合〕

- ①埋込敷居に付いている位置出しスペーサーを、縦枠の戸じゃくり溝に合わせます。
- ②同梱のねじで固定します。



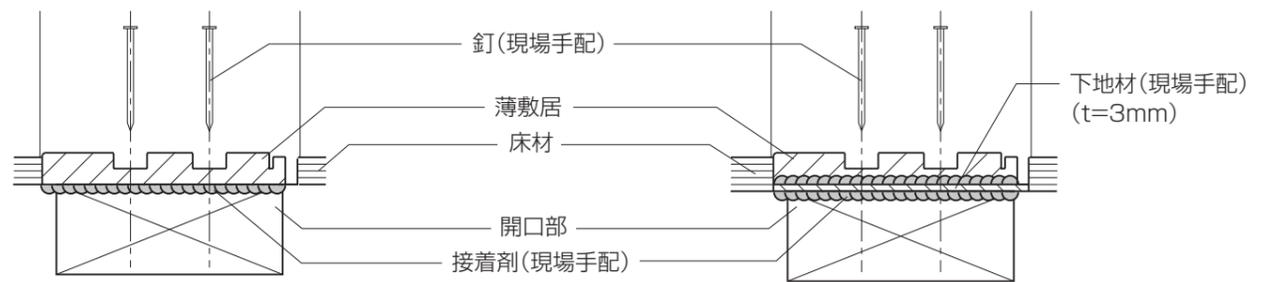
### 〔薄敷居の場合〕

#### ●床材厚さ12mm

- ※必ず薄敷居に接着剤を付け、躯体に固定してください。
- ※釘は端部より100mm離し、450mmピッチで接着剤と併用して取付けてください。

#### ●床材厚さ15mm

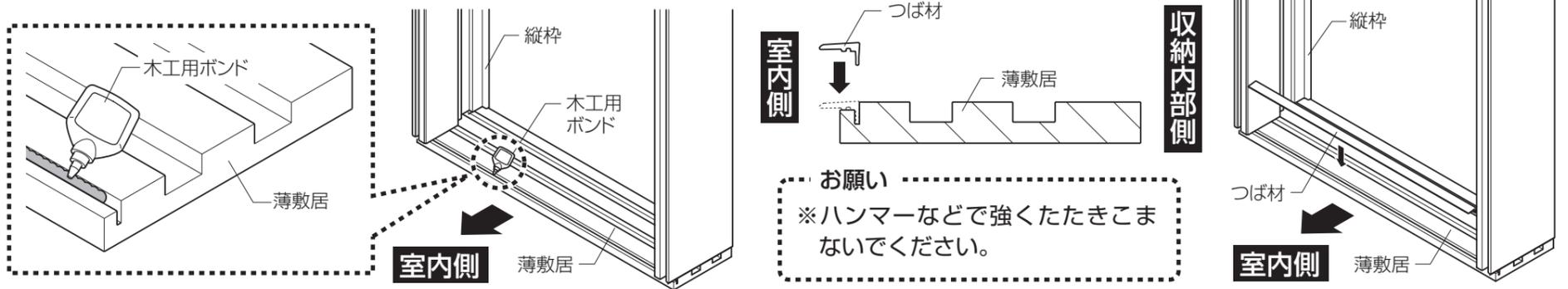
- ※必ず薄敷居と下地材に接着剤を付け、躯体に固定してください。



### 3 つば材の取付け(薄敷居を使用する場合のみ)

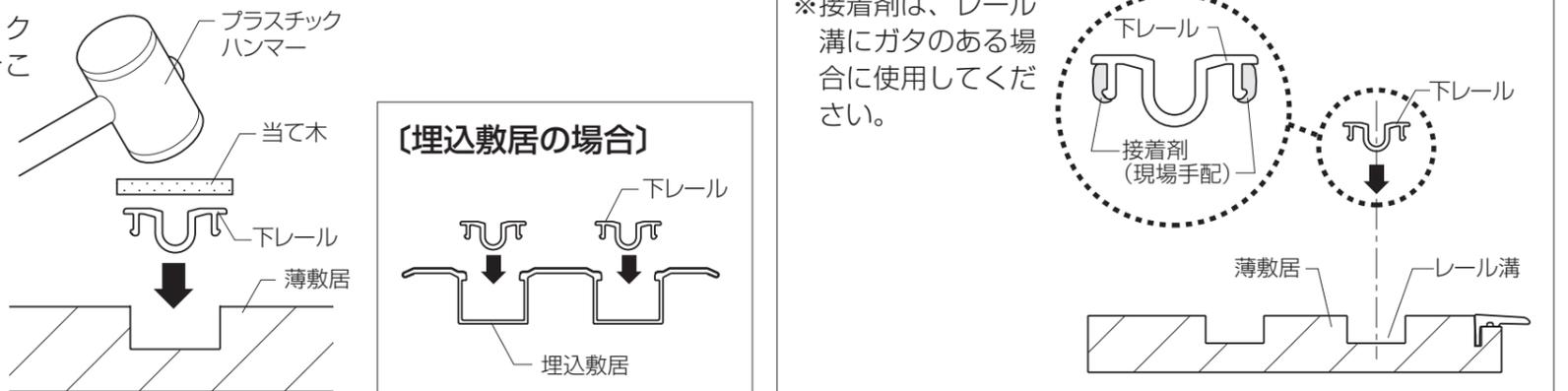
- ①現場でつば材の寸法を開口に合わせて切断してください。
- ②薄敷居の溝に木工用ボンド(現場手配)をつけてください。

- ③つば材を溝に手ではめこんでください。



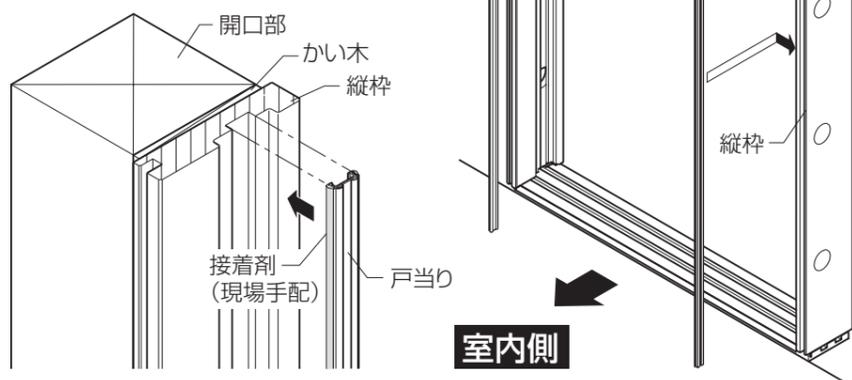
### 4 下レールの取付け

- 敷居の溝にプラスチックハンマーなどでたたきこんで固定します。



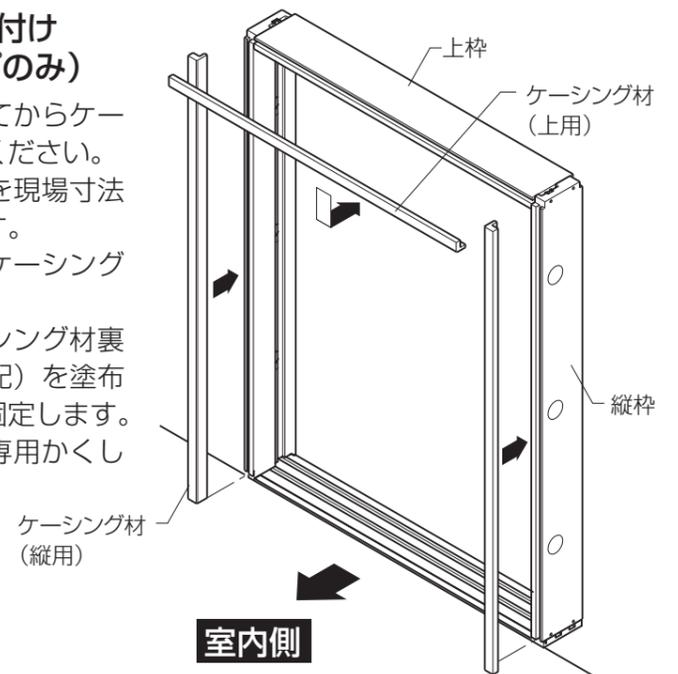
### 5 戸当りの取付け

- 戸当りに接着剤(現場手配)を塗布して、溝をふさぎます。
- ※戸当りが長い場合は無理に入れずに必要量を切詰めてください。
- ※戸当りは必ず、下レール取付け後に取付けてください。



### 6 ケーシング材の取付け(ケーシングタイプのみ)

- ※壁材・床材を仕上げからケーシング材を取付けてください。
- ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
- ②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
- ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、ケーシング材を固定します。
- ※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。



## ■本体の建付け調整

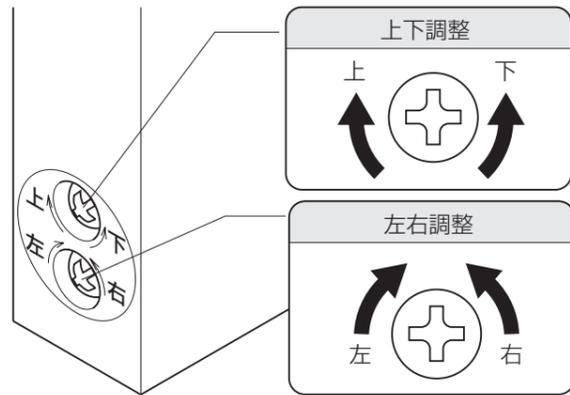
●本体には、上下方向、左右方向およびブレーキ力の調整機能が付いています。

### 〔上下調整(調整幅+4mm、-2mm)〕

●本体両下端の上下調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

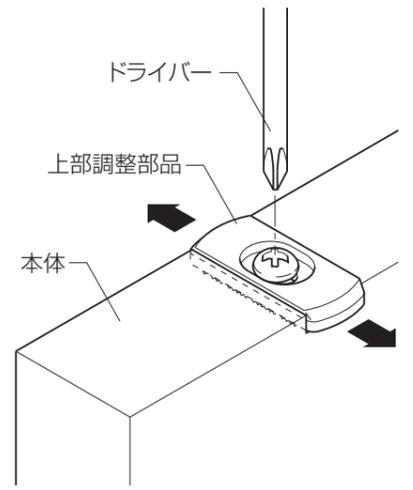
#### ▲注意

●取付け調整後、本体の鴨居へのかかりが5mm以上あるか確認してください。本体と枠の間にすき間が生じたり、本体が枠から外れやすくなり、ケガや故障の原因になります。



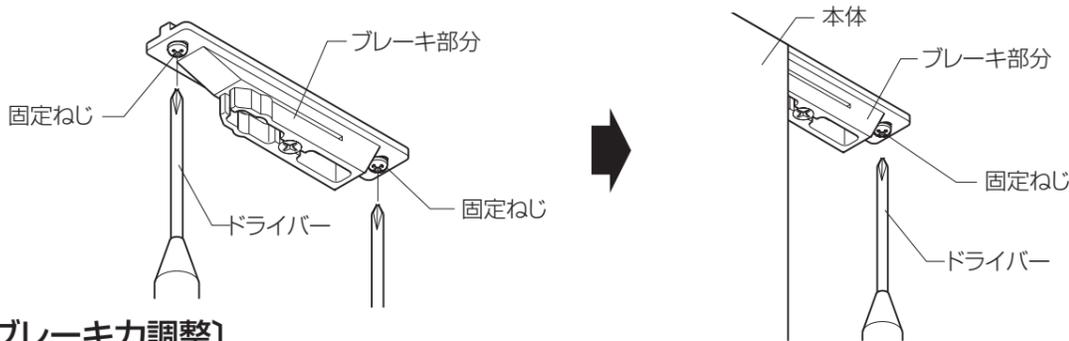
### 〔左右調整(調整幅±2mm)〕

①本体両下端の左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。  
②本体上端の上部調整部品のねじをゆるめ、①で調整した分だけ上部調整部品をずらし、ねじを締直します。(本体が常に垂直になるように調整してください。)



## 〔ブレーキの前後調整〕

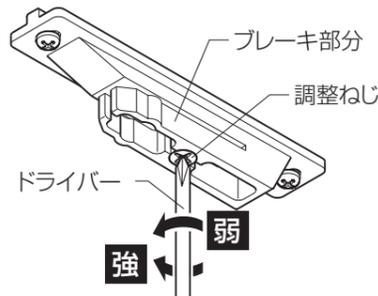
●本体の前後調整時、ブレーキの前後調整も行ってください。上レール内側に付いているブレーキ部品の固定ねじをゆるめ、図のように本体を途中まで閉じてください。このまま片側の固定ねじを締め、本体を開けて反対側の固定ねじも締めてください。



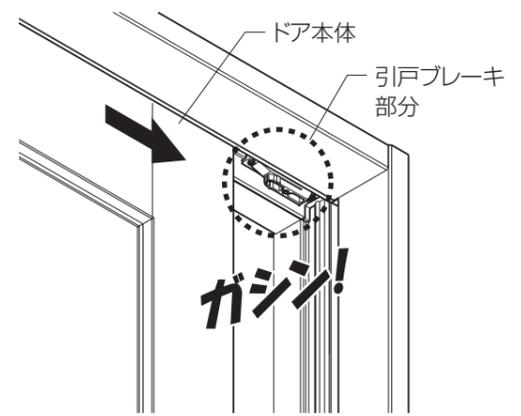
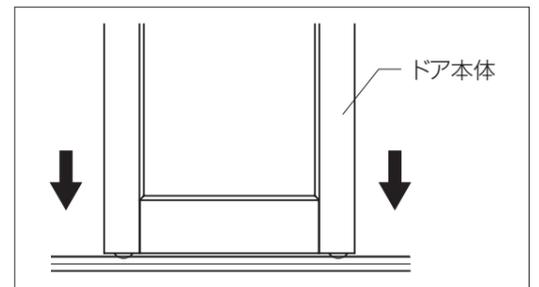
## 〔ブレーキ力調整〕

上レール内側に付いているブレーキ部品の調整ねじで、ブレーキ力を調整してください。

- お願い
- ※調整は必ず手回しドライバーを使用してください。
  - ・電動ドライバーは使用しないでください。
  - ※調整ねじを弱方向に回す場合、ねじ頭がブレーキの表面より出すぎないように調整してください。
  - ・回しすぎるとねじが抜けます。
  - ・出寸法を1.5mm以下としてください。



●本体がブレーキ部品に当たるときは、上下調整ねじを回して本体を下げてください。



## ■納まり図

### ■クローゼット引戸ユニット 引違いタイプ ノンケーシング

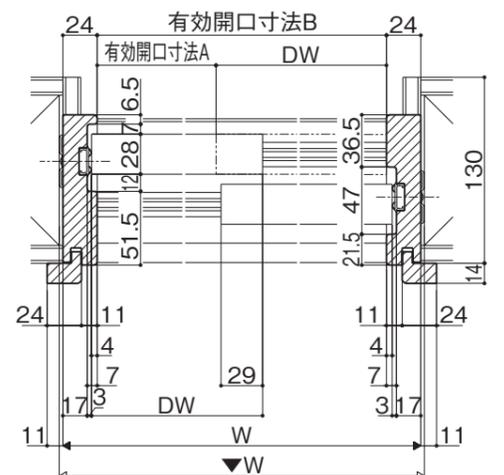
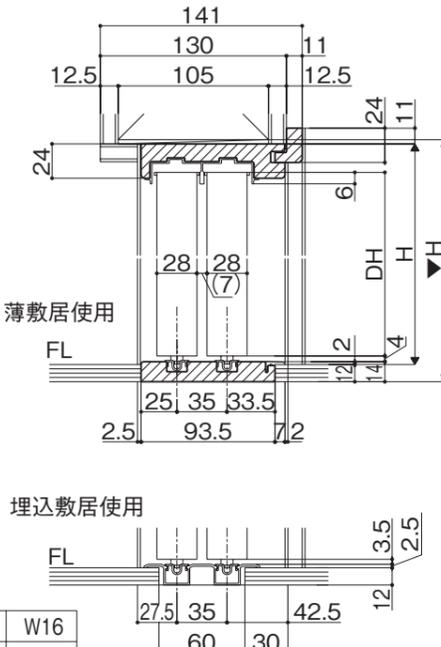
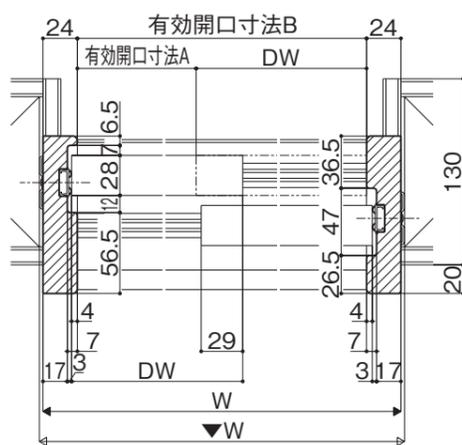
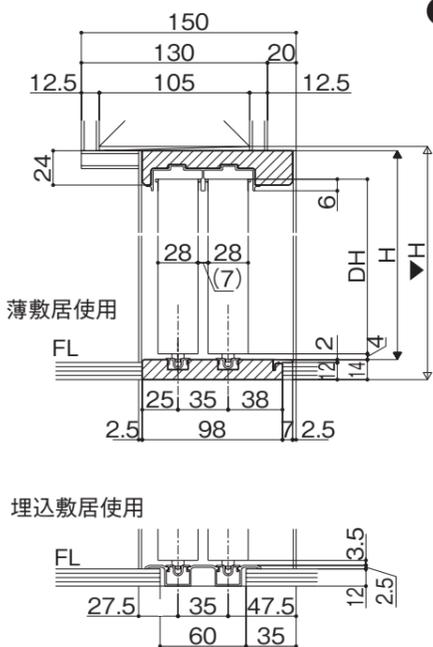
### ■クローゼット引戸ユニット 引違いタイプ ケーシング付

#### ●縦断面図

#### ●縦断面図

#### ●横断面図

#### ●横断面図



基本寸法 (mm)	W呼称	W16
	W	1623
	H呼称	H20
	H	2023

W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W16(1643)	779	1595